

農産物流通技術研究会

入会のおさそい

研究会の活動内容

- (1) 研究会報の発行 季刊(1、4、7、10月)に、運営委員の編集による農流技研会報(24頁)を発行します。
- (2) 年報の企画編集 農産物流通技術に関する年報を企画・編集・発行します。
- (3) 研究例会・国内外視察の開催 合計年3回、例会は東京を中心に。視察は産地や市場などで開催。
- (4) 新製品発表会、移動カタログライブラリーの実施。
- (5) 農産物流通技術に関する国際協力の実施
- (6) 講師の派遣、斡旋 会員ならびに生産者団体(全農、経済連)、その他関係団体主催の研究会に。

農産物流通技術研究会 事務局

〒305-8642 茨城県つくば市観音台 2-1-12
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
食品研究部門 食品加工流通研究領域
食品流通システムユニット気付
TEL: 029-838-7191
FAX: 029-838-7996
E-mail: noryu-giken@ml.affrc.go.jp
ホームページ: <http://www.noryu.academy/>

20170425

研究会のねらい

農産物流通技術研究会は、1979年(昭和54年)10月に設立されて以来、農産物の流通に係わる研究、調査、情報交換・提供などの事業を活発に展開してきました。活動の一端を「最近の活動」に記載しましたが、120回以上に及ぶ研究例会に端的に表れているように、その活動実績は当研究会が正にこの分野を代表する組織であることを示すものと自負しています。

会員は、大学、独立行政法人(旧農林水産省等研究機関)、公立試験研究機関、国・県の行政機関、全農(県本部を含む)、経済連、農協、機器・資材メーカー、青果物卸売会社、スーパーマーケット、農業生産法人、関連諸団体と多岐にわたります。このような構成の特徴を生かして、農産物の流通に係わる技術、行政施策、経済、消費者受容性などの幅広いテーマに取り組んできました。

これまでの活動を顧みますと、設立当初は予冷や鮮度保持、その後は自動化技術や非破壊品質評価技術、また最近では安全・安心など、農産物流通における時代のニーズに即応した、あるいはニーズを先取りするテーマを取り上げて活動を展開し、農産物の流通ロスの低減、品質の向上、安全・安心の確保などに貢献しています。

当研究会のねらいは、次の諸点に集約することができます。

- (1) 農産物流通技術(一次加工を含む)に関する情報の交換
- (2) 新しい農産物流通技術(機器資材を含む)の普及・啓発
- (3) 新しい農産物流通技術開発推進のための活動
- (4) ビジネスチャンスに有効な、産地、機器・資材メーカー、大学・研究機関の交流、協力活動

役員

- (1) 会長 長谷川美典(農研機構)
- (2) 副会長 真弓喜久則(ナラサキ産業(株))
宮崎丈史(元 千葉県農林総合研究センター)
- (3) 事務局長 椎名武夫(千葉大学 大学院園芸学研究所)
※理事、監事、運営委員、顧問につきましては、ホームページをご覧ください。

最近の活動(2017年4月現在)

(シンポジウム・研究例会・研修視察)

2017年度総会記念シンポジウム 2016年11月25日
「業務用野菜の安定供給技術」

1. 実需者が求める技術開発
(株)彩喜 取締役社長 木村幸雄 氏
2. 流通施設業界が求める研究開発
シブヤ精機(株) 新市場開発本部長 執行役員
山崎幸八郎 氏
3. 野菜用自動収穫機の開発動向
農研機構農業技術革新工学研究センター
上級研究員 塚本茂善 氏
4. 青果物の長期貯蔵技術の現状と課題
千葉大学大学院園芸学研究所 教授 椎名武夫 氏

第7回研究発表会 2016年11月25日

3件の発表(口頭発表&ポスター)がありました。

第48回研修視察 2016年2月25日

「農産物の包装・産直販売の動向調査」

視察先:精工つくば工場、ポケットファームどきどき、
キリン取手工場

第128回研究例会 2017年3月13日
「農産物包装の技術と商品開発・その最前線を探る」

1. 農産物等包装技術の開発の現状と展望 ～
改めて農産物包装について考える～
日本食品包装協会 石谷孝佑 氏
2. MA包装資材P-プラスの開発と今後の展望
住友ベークライト(株) 溝添孝陽 氏
3. 青果物用の多様な品質保持包装の開発
(株)精工 佐藤友光子 氏
4. パッケージサラダ製造と品質保持包装
キューピー(株) 柴田隆喜 氏

第127回研究例会 2016年8月31日
「コールドチェーン勧告から50年、品質管理の
新基準」

第126回研究例会 2015年8月28日
「農産物輸出の現状と農産物輸出を支える最新技術」

会員の種類・特典・年会費

1. 正会員(個人会員) 年会費 6,000円

- (1) 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を1部送付。
- (2) 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席(非会員は20,000円)。
- (3) 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金による参加。

2. 団体会員 年会費 30,000円(1口1名当たり)

- (1) 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を1部送付。
- (2) 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席。2名以上は5,000円/人。

- (3) 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金

による参加。

- (4) 研究例会、セミナーの席上で新製品の発表や説明会を行うことができる(30,000円)。

3. 維持会員 年会費 70,000円(1口3名当たり)

- (1) 季刊会報および農産物流通技術に関する年報を最大3部送付。
- (2) 研究例会、セミナーへの会員価格(3,000円)での出席。4名以上は5,000円/人。
- (3) 研修視察(見学会等)、海外視察などへの割引料金による参加。
- (4) 研究例会、セミナーの席上で新製品の発表や説明会を行うことができる(無料)。
- (5) 新製品情報を会報へ載せることができる。

4. 学生会員 年会費 1,000円

- (1) 研究例会、セミナーへの学生会員価格(1,000円)での出席。

<入会申し込み>

右側の入会申込書(あるいはホームページにある入会申込書式)に記入の上ファックス、電子メールで、事務局へお送り下さい。

FAX:029-838-7996

(この番号は反対面の事務局の所にも記載あり、こちらを裏面にしてファックスする時はそれを見て下さい)

入会申込書

農産物流通技術研究会に、下記の通り、入会申し込み致します。

正会員、団体会員、維持会員、学生会員

10月、4月より 会費 円

フリガナ
組織名

部署名
役職名

フリガナ
氏名



所在地 〒

TEL :

FAX :

携帯 :

e-mail :

会費の支払 月 日 請求書 要、不要

※ 企業の方は団体または維持会員のいずれかでお申し込み下さい。会有効期間は10月1日から翌年9月末日ですが、4月1日から翌年3月末日も可能です。

会費のお支払い: 原則として年会費は前納です(維持会員のみ年2回分割可)。下記口座へお振り込み下さい。

常陽銀行谷田部支店: 普通口座 1470362

郵便振替: 00120-0-315135